

本県の良質な食材や加工品を香港などの海外レストランで活用してもらおうと「県産地見学・商談・交流会」が18日、水戸市内のホテルで開かれ、出展した本県の農業法人関係者らが、香港などの外食産業のシェフやバイヤーに県産食材をアピールした。

NPO法人「日本食レストラン海外普及推進機構」が主催。県農業法人協会といばらき農林水産物等輸出促進協議会が共催した。香港や中国の外食産業などのシェフやバイヤー11人が来日。輸出に関心の高い県内農業法人16社が出展した。16社が生産するのはコメや農畜水産物、酒やしょう

本県食材 目指せ海外 中国業者らに商談会

ゆなどの加工品。会場には、これらの食材を使った料理が並び、シェフやバイヤーらは、試食しながら本県農業関係者に質問していた。

香港で外食産業に携わる会社幹部は「品質が高いと感じた。物流の問題がなければ輸入したい」と前向き。また、輸入商社経営者は「とてもおいしいが、値段を聞くとびっくりしてしまう」と価格面の課題を挙げた。

県農業法人協会の山崎正志会長は「原発事故以降、国内外で風評被害が残り、歯がゆい気持ちがあったが、現場に来てもらえば安全でおいしいものと分かってもらえる」と話した。

(平野有紀)



香港や中国のシェフやバイヤーらは、熱心に本県食材への質問を寄せていた＝水戸市三の丸1丁目の水戸京成ホテル